

連続コラム

第2回 肥田町 八剣神社 神主は山伏だった!?

うちんたあのお宝、なんやね?

肥田町の八剣神社は、江戸時代には上肥田村・中肥田村の氏神でした。神社の創建年は定かではありませんが、一度荒廃していた社が江戸時代前期の貞享元年（1684）に神仏習合の社として再興されます。再興後から明治維新で神仏分離令が出されるまでの間、山伏（修験者）が神主を務めていました。神社に残るさまざまな文化財から、その歴史を知ることができます。

貞享元年の再興の年の文化財として、「八剣宮」と刻まれた社額【写真1】と社殿再建の棟札【写真2】があります。社額の裏には再興の経緯が詳細に刻字されています。それによると、社額は神仏習合の社として再興する節目に制作され、表面の「八剣宮」の文字は崇禪寺（妻木町）の七代住職春嶺宗栄禪師が記したといえます。

春嶺禪師は肥田の渡辺氏の七番目の子であり、その縁から社額の揮毫を引き受

けたということも分かります。

一方、棟札には、神主名が「權大僧都善性院」と記されます。山伏の階層に「權大僧都」があり、その後の江戸時代の棟札にも「大越家」といった山伏の階層名が記されることから、明治5年（1872）に神主が神官に替わるまで、山伏が神主を担ってきたことがうかがえます。

霊山で修行をした山伏は、民間の祈禱や医療を担う存在として村々に居住していました。肥田の山伏も、明治以降に神主は退きますが、昭和初期まで村に住んでいた記録があります。

このほか、寛文5年（1665）の銘がある獅子頭【写真3】の口内にも「八剣不動明王」と、仏の名が記されます。獅子頭は現在の秋祭りでも使用され、天狗【写真4】と赤鬼【写真5】とじやれあう、近隣では珍しい行事が奉納されています（祭りでは複製を使用）。



3 獅子頭



5 赤鬼面



4 天狗面



2 社殿再建の棟札



1 「八剣宮」と刻まれた社額

土岐市の文化財展『祭りと信仰』2月23日まで開催中。八剣神社の文化財も展示しています。